

授業科目 救急蘇生法演習

【担当教員名】 月城 慶一 他	対象学年	3	対象学科	理学・作業・言語・義肢・健栄
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

【概要・一般目標：GI0】
一般市民が行うことのできる応急救護の概念を理解し、CPR（心肺蘇生法）とAED（自動体外式除細動器）を組み合わせた応急救護法を実施できる。

- 【学習目標・行動目標：SBO】
1. 各疾患の救急対応法を理解できる。
 2. 応急救護の概念や蘇生の連鎖、感染の予防について理解できる。
 3. 気道、呼吸、循環の初期の評価について理解し、実施できる。
 4. 気道の確保について理解し、実施できる。
 5. 効果的なCPRを実施できる。
 6. 病気やけがに応じた対処法を理解し、実施できる。
 7. AEDとその使用方法を理解し、CPRと組み合わせて実施できる。
 8. 応急救護法が必要な現場に遭遇した場合の対処法を説明できる。

回数	授業計画・学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	オリエンテーション		
2	スポーツ現場での救急対応	1	講義
3	精神科救急とその対応	1	講義
4	内科的救急対応 1	1	講義
5	内科的救急対応 2	1	講義
6	応急救護法とは	2	演習
7	蘇生の連鎖と感染の予防	2	演習
8	気道、呼吸、循環の初期の評価	3	演習
9	気道の確保	4	演習
10	CPR（心肺蘇生法）	5	演習
11	病気やけがに応じた対処法	6	演習
12	AED（自動体外式除細動器）を用いた応急救護 1	7	演習
13	AED（自動体外式除細動器）を用いた応急救護 2	7	演習
14	知識の確認	8	演習
15	まとめ	8	演習

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)				
参考書	救急蘇生法の指針 市民用・解説編 改訂3版	日本救急医療財団心肺蘇生法委員会（監修）	へるす出版	2006・1,260円・(税込)
その他の資料				

【評価方法】 出席状況、授業態度、筆記試験で総合的に評価する。	【履修上の留意点】 ・30名程度のグループで行い、グループは前年度中に発表します。
------------------------------------	--